

平成 25 年 9 月 19 日

長野県知事 阿 部 守 一 様

特定非営利活動法人 長野県動物福祉協会
特定非営利活動法人 地球生物会議 長野
愛らぶキャット里親会長野
一匹でも犬・ねこを救う会
こちら肉球クラブ
猫の命をつなぐ会
ハッピーテール
わんにゃんクラブ

犬猫の殺処分を無くすための対策強化要望書

日ごろ、動物の愛護・管理事業にご尽力いただき感謝申し上げます。

また、本年 4 月 10 日付け質問状（動物行政（犬猫等収容施設について））に対しても、詳細なご回答をいただき御礼申し上げます。

犬猫の殺処分数が、ここ 10 年間で半減したことは、大変喜ばしいことですが、実際にはまだ多くの罪のない犬猫たちの命が奪われていることから更なる対策が必要であると考えます。

飼主・県・県民それぞれの責任履行と、愛護団体や個人ボランティア等との連携を一層強化し、殺処分ゼロを現実のものにするため、次のとおり要望します。

なお、ご多忙の折、恐縮には存じますが、本要望に対するご回答を本年 10 月末日までにいただきますようお願い申し上げます。

要望事項

- 1 保健所に於ける犬猫収容施設的环境及び飼養の基準設定とその遵守
- 2 殺処分ゼロに向けた取り組みの強化
- 3 殺処分方法は、注射による麻酔薬投与に限定
- 4 関係団体や個人ボランティアとの連携強化
- 5 動物販売施設及び繁殖施設の立ち入り調査の強化

1 保健所に於ける犬猫収容施設的环境及び飼養の基準設定とその遵守

動物の健康と安全確保のために、収容施設の施設基準と飼養管理の基準を定め、極限の緊張状態に置かれている動物をやさしく管理できる施設に改善すること。

(1) 暑熱寒冷対策について

- ① すべての収容施設に暑熱寒冷対策のための空調設備を整え、動物にとって快適な環境を整える。
- ② 冬の暖房機器運転開始時の室温目安に統一性がないため、松本保健所で採用している温度設定（14℃～15℃以上（仔猫は20℃））をすべての施設に適用する。特に仔猫・老猫・老犬は温度管理に配慮が必要。
- ③ 犬舎については床暖房化、猫ケージには暖房敷きマットの設置を基本とし、設置まではコンクリートの床は一部に暖房敷きマットなどの対策を講じ冷えに対応すること。

(2) 収容施設の区分面積等について

- ① 現在、犬・猫舎が別々になっている保健所は、伊那と松本の2ヶ所だけであるが、全ての収容施設に於いて個別に管理し、犬と猫の室内適温を設定し、犬の鳴き声による猫のストレス低下に努める。
- ② 特に佐久保健所は、収容数が最も多いにも関わらず面積が最も狭い（ケージ数は最多）ため、過密状態によるストレスや病気感染を引き起こしかねない。何よりも収容スペース不足が殺処分の理由にならないように、物品の整理や工夫によるできる限りの広さを早急に確保すること。

(3) 通風・採光について

窓のない収容施設が3ヶ所あるが、明かりは体内リズムを整えるために不可欠であり早急に施設改善していただきたい。また、通風は暑熱・寒冷対策を講じたうえで強制給排気や窓による外気取り込みが可能になるよう改善を図っていただきたい。

(4) 保護収容時と殺処分時の搬送について

- ① 保護地点から収容施設までの車の移動に於いて、エアコン利用（運転席共用）可能な所は、2ヶ所あるが、全ての所に於いても同様の対応とし、搬送中に動物を衰弱させないこと。
- ② 収容施設から犬等管理所（殺処分施設）までの移動に於いては、どこでも温度管理がなされていないので、早急に改善すること。

2 殺処分ゼロに向けた取り組みの強化

(1) 収容後の対応の中で殺処分を決定した理由を回避し譲渡を増やす対策を講じること。

① 攻撃性のある個体への対応

ア 攻撃性のある犬への対応

攻撃性があるため、殺処分になった犬は平成24年度では60頭いたが、保護収容に至るまでの過酷な状況により、不安・恐怖・怒りから一時的に攻撃的になる犬は多い。これらの犬に対し、動物愛護会の家庭犬インストラクターやプロ訓練士などからのアドバイスや接触・訓練などを取り入れ、譲渡可能になるよう時間をかけた対策を講じること。

イ 攻撃性のある猫への対応

野良猫の場合、人になれていないので威嚇は当然であり、譲渡は期待できないが、所有者不明の猫、あるいは飼い猫と主張する持込者であっても、人なれしていない猫の引き取りは拒否を徹底し、地域猫として生かせるよう対策を講じること。

② 病気や怪我の個体への対応

病気や怪我で引き取り収容した犬猫は、放置せず、検査・治療・感染予防など適切に対処し回復に努めること。

また、このような場合、動物愛護センター（ハローアニマル）へ移送し治療を積極的に受けさせること。

③ 幼齢動物への対応

幼齢のため殺処分になった猫は平成24年度では1,034匹いたが、飼養・管理の難しい幼齢猫であってもボランティアに「預かり」依頼することで、譲渡が可能になる。

よって、日ごろからボランティアの確保に努め、連携をとること。

④ 譲渡希望がない、高齢、親和性がない個体に対する対応

保健所で長期間飼養したが譲受希望がないため殺処分になる高齢個体や親和性が無い犬猫については、動物愛護センター（ハローアニマル）へ移管し時間をかけて譲受人を探し、高齢であれば短い余生が尽きるまで同センターで世話が受けられるようにすること。これらの犬猫の保護・収容は、動物愛護センター（ハローアニマル）設置目的の一つであることからボランティアの参加を募り県民と協力して、保護活動を行い県民一人ひとりの動物愛護に対する意識の向上につなげる。

(2) 収容数の削減と譲渡率・返還率の向上

① 引き取り時の対応の改善について

ア 飼主・持込者への粘り強い説得と引き取り拒否を励行すること。また、県として安易な引き取りは行わない旨の広報を徹底する。

イ 野良猫や外猫の引き取り時にその個体を生かすための道は「地域猫」でしかないことから、この「地域猫」という言葉と意味について、広報し県民の理解を求め地域猫活動を充実させること。

ウ 繁殖制限措置推進のため、全地域において助成金制度を創設導入し、不妊手術普及推進を図ること。

② 譲渡会の開催について

平成24年度に於いて譲渡会を実施している保健所は、佐久と伊那保健所のみであったが、譲渡会は成果が大きいことから、愛護団体やボランティアの協力を得て、全ての保健所や収容施設で定期的に、より回数を多く実施すること。

③ 返還率の向上のための啓発について

犬の返還率アップと迷い犬を減らすためには、鑑札や注射済票を首輪に装着させることが大切だが守られてないことが多いため、市町村と協力して、その普及に努める。

猫の返還率はゼロに等しいことから、逸走に備え連絡先を明記した首輪を装着させ、行方不明になった場合、すぐに警察署や保健所に問い合わせることを周知し定着させること。

3 殺処分方法は、注射による麻酔薬投与に限定

(1) 平成24年度のデータでは鎮静剤投与無しで炭酸ガスによる殺処分が犬78頭、猫791匹。鎮静剤投与有りで炭酸ガスによる処分が犬ゼロ、猫9匹。注射麻酔投与による殺処分が犬27頭、猫870匹であった。

当方から行った先の質問「今後、殺処分決定動物に対し、収容施設内に於いて注射麻酔投与における方法を採用していく意志があるか否か」に対し、「有り」の回答を頂いている。

止む無く殺処分を行う場合、全ての収容施設に於いて、全ての対象動物に対し、担当獣医師が注射麻酔投与による安楽死を実施すること。

なお、犬等管理所で殺処分が行われている間は、保護収容・搬送・処分に至るすべての過程で、恐怖や不快や苦痛を与えないことを徹底することは勿論のこと、更に現在の炭酸ガス方式からガス麻酔の過剰吸入方式による殺処分を早期に実現すること。

- (2) 止む無く殺処分を行う場合、全収容施設に於いて注射麻酔投与による殺処分の方法をとることを見据え、犬等管理所を全廃もしくは火葬施設のみを残し、一部動物愛護に係る啓発施設やシェルターとして使用可能とすること。

4 関係団体や個人ボランティアとの連携強化

- ① 木曾保健所以外の9収容施設に於いて、ボランティアと協力して活動が行われている。この木曾保健所の平成24年度の猫の殺処分率が収容数の98%、犬は42%と、どちらも10ヶ所中最も高い数値である。今後はボランティアの協力も取り入れて活動を実施し、他所への移動も含め譲渡等の機会を増やすよう要望する。
- 譲渡活動・地域猫活動・繁殖制限普及活動・犬のしつけ方教室・猫の飼い方教室は、殺処분을減らすための重要な事業であるが、いずれも僅かな担当職員だけでは容易なことではない。愛護団体・愛護推進員・個人ボランティア等との連携を更に強化し、殺処分ゼロに向けて取り組んで欲しい。また、広域的な活動を愛護団体が行えるよう県下の愛護団体の連絡調整ができるよう連絡協議会を動物愛護センター（ハローアニマル）内に設置し調整を図る。
- ② 動物愛護センター（ハローアニマル）の存在理念として、当該センターを動物愛護及び保護活動に係わる県民一人ひとり及び団体の活動を支援する施設とすべく、更にその用途範囲を開かれたものとする。

5 動物販売業及び繁殖施設への立ち入り強化

改正動物愛護管理法による生後間もない犬と猫の販売規制やペット販売時の対面説明が義務付けられたことから、従来より更に立ち入り調査を強化し、不適正な販売を防止するとともに、若齢動物の販売にあたっての激変緩和措置を前倒しするような指導強化を図り、本当に飼いたい人が、飼える環境で、適正に飼養できる状況を行政が推進するよう要望する。

以上